宇都宮市

総合防災訓練を開催

道路啓開や給水対応を確認

宇都宮市は24日、陽南小学校で2026年度総合防災訓練を実施した。市職員をはじめ、宇都宮建設業協会、宇都宮市管工事業協同組合、県解体工事業協会、県測量設計業協会、県防災士会など38機関から約300人が参加。大規模地震を想定し、道路啓開や応急給水など、災害時の初動対応を確認した。

訓練は宇都宮市南部を震源とするマグニチュード6・9の地震が発生し、市内各所で家屋倒壊や電気・水道などのライフライン被害が生じた想定で実施した。

宇建協による道路啓開訓練

市水道局と宇管工による給水訓練

宇都宮建設業協会は市と連携し、道路啓開訓練で重機を使って倒壊家屋などを想定した障害物を除去。被災時の緊急輸送道路などの通行確保に向けた手順を確認した。

宇都宮市管工事業協同組合は市上下水道局と連携し、応急給水訓練を実施。実際の応急給水設備を使用し、非常用飲料水袋への給水を行った。

佐藤栄一市長は「初動対応訓練をはじめ、各機関と連携した訓練を実施した」と説明し、避難所となる体育館の冷房設備やエアマット、トイレトラックなども体験して「地域防災力の強化と市民の防災意識を高めることができた」と述べた。また、災害時には自助・共助の取り組みが不可欠とし、市としても災害対策の充実・強化に取り組む考えを示した。

会場では、一般来場者向けに心肺蘇生法の体験コーナーや防災関係企業による展示を実施。屋外では市が導入したトイレトラックやモバイルトイレを展示し、災害時の活用方法などを紹介した。